

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475500479		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームいずみの杜 ユニット:くるみ		
所在地	仙台市泉区松森字下町7番地の2		
自己評価作成日	令和3年12月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関り」のもと、ユニット目標である「一人一人が元気に明るいユニット」というスローガンを掲げて、ご利用者が安心して自分らしく過ごすことができるように日々関わらせていただいております。認知症という障がいがあっても、身体的なサポートが必要とされる場合も、合理的な配慮をしながら、ご本人の想いと権利を大切にしたいと考えております。また、隣接するいずみの杜診療所をはじめ、かかりつけの往診医など多職種と連携を図り、安心して過ごせる環境づくりに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台市東部の住宅街に2001年に開設した平屋建て2ユニットの事業所である。母体法人の「医療法人社団清山会」は県内に多くの介護施設等を運営しており、同敷地内には診療所、介護老人保健施設、通所介護事業所等があり連携を図っている。法人理念の基、事業所目標をユニット毎に掲げ、利用者の思いに寄り添いながら、その人らしく生活が送れるよう日々取り組んでいる。コロナ禍においても法人のマニュアルに沿い感染予防を徹底しながら家族との面会や外出、オンラインでの家族との面会など、工夫しながら利用者との関係が途切れないよう努めている。食事は利用者と一緒に考え、好きなものを献立に取り入れ職員も一緒に食べている。コロナ禍において、職員は毎週抗原検査を実施し、コホーティング(集団隔離)想定訓練を実施している。法人で「宮城県直接応援派遣制度」に登録しており、他法人に感染者が発生した場合には応援職員を派遣するなど、連携体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームいずみの杜）「ユニット名 くるみ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、職員一人一人が意識するよう働きかけています。日々の生活の中で認知症という障がいに向き合いつつ、尊厳を大切に「その人」と繋がりをもちながらあたりまえの生活が送れるように関わりを持っています。	法人理念、社是、事業所目標をユニット毎に掲げ取り組んでいる。法人理念は「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関り」で、利用者職員が「水平な関係」を持ち尊厳を大切に、思いをくみ取り、あたり前の生活が送れるよう日々のケアに活かしている。目標は年度初めに職員で振り返り、話し合い決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため地域の行事や活動も自粛しているためなかなか参加できない状況ですが、毎月行う地域清掃や防災訓練に参加し、地域の皆様との交流を大切にしています。	町内会に加入している。コロナ禍で地域活動が自粛され、交流が減っているが毎月行われる地域清掃には管理者が参加している。コロナ禍以前は地域の防災訓練やお祭り、運動会に参加し事業所の行事を案内するなど、地域交流を深めていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響に伴い、集まっての運営推進会議は開催できておりませんが、定期的に地域に赴き、事業所の取組や状況などをお伝えするなど理解していただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響に伴い、集まっての運営推進会議は開催できておりませんが、地域に事業所新聞を定期的にお届けし、サービス概要を知って頂いたり、関係者からの意見を集約し議事録にまとめ、配布するなどサービスの向上に努めています。	メンバーは市民センター館長、地域包括職員、民生委員、デイホームいずみの杜・訪問理美容の職員等で構成している。コロナ禍で現在は2ヶ月毎に事業所の状況報告を行いながら、「いずみの杜」新聞を届けている。メンバーから寄せられた意見を集約し、議事録にまとめて配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故発生時など報告が必要だと判断したものにしましては、速やかな市町村への連絡、情報の共有に努めながら報連相を心掛けています。	適宜、事故報告や入居状況などの報告をしている。コロナ関連の情報に関しては、随時メールなどで情報共有し、保健所とも連携し、職員の抗原検査についても結果を報告している。保護課職員が月1回来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束廃止のための委員会を開催しています。夜間防犯上の施錠以外は鍵をかけず、外出や散歩を希望されるご利用者は職員と一緒に楽しんでいます。夜間などベッドからの転落などの危険性がある方には、センサーを設置させていただきこまめな訪室を心掛け、すぐに駆け付けられるように配慮しています。	3ヶ月毎、管理者、ケアマネ、介護職員で「身体拘束適正化検討委員会」を開催している。職員がインシデント、グレーゾーンカードに記入したものを委員会で集計し検討している。年2回、事例検討等を含め研修を行っている。外出傾向が強い人は、行動を見守り職員が同行している。ベッドからの転倒防止策としてセンサーを使用する人もいる。玄関は防犯上、20時から7時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解を深められるように、事業所内の勉強会やユニットでのミーティングを通じて、職員への周知と注意喚起に努めています。	虐待についての事例検討や法律、権利擁護について学び、虐待防止に繋がるよう理解を深めている。管理者は、職員が精神的な負担を抱えてないか都度、話を聞くなど負担軽減に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されるご利用者もいることから、制度について学ぶ機会を設けております。また、診断時に併設するいずみの杜診療所より制度活用のアドバイスなども受けやすい環境となっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご本人やご家族に対して、十分な説明を行います。不明な点についてはその場でお応えしながら、ご本人やご家族の不安を取り除けるように努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、面会時や電話等で近況報告を行い、その中でご意見やご要望を伺うようにしています。また、集約した意見などは、事業所ミーティングで話し合ったり、法人本部に相談しながら事業所運営に反映しています。	面会時や電話などで利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている。家族からは年末・年始に宿泊や外出、訪問についての相談が多い。遠方の家族とはオンラインも活用し、繋がりを大切に関係が途切れないうり取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや個別の相談などで意見を集約し、職員や法人と相談しながら事業所運営に反映できるように努めています。	定期的なミーティング時や年2回の管理者との面談の際に意見・要望を聞いている。職員一人ひとりから話が聴けるよう、普段から話しやすい環境づくりにも努めている。職員からは備品や、シフトについての要望がある。法人本部に相談し、他の事業所とも連携を図り改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自ら取り組み挑戦できる機会があります。また、ご利用者と一緒に行うことを企画し、職員がやりがいをもちながら働けるような環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員との普段の会話や面談を実施して個人の力量や努力を把握するように努めるとともに、法人内外の研修にも参加していただき個人のスキルアップを図っています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で開催する研修、コロナウイルス対策の感染予防トレーニングや、応援派遣体制など法人全体での取り組みを実施しております。交流を持ちながら相互協力体制を整える環境整備ができています。	法人が「よろず懇話会」を開催しており、同法人、他法人の事業所同士、各取り組みを発表し合うなど交流する機会を設けている。法人が開催する研修やコロナウイルス感染対策の感染予防トレーニング等において、同法人の他事業所と連携している。法人全体で「宮城県直接応援派遣制度」に登録し、緊急時には他法人に応援職員を派遣している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族には、入居申し込み時や入居前に実際に生活する場を見学いただき、事業所の雰囲気を感じて頂いております。その中でご要望やご質問にお答えしています。安心してサービスのご利用を開始できるよう管理者を始め、全職員で関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問調査時に生活の場となる事業所のサービスについて充分にご説明を行うとともに、ご要望や質問、不安な点などを伺い、対話を重ねて安心していただけるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に把握したご本人の情報や要望をもとにアセスメントを行い、ユニット内や事業所のカンファレンスを行いながら、必要なサービスのアドバイスをを行うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者の想いやお話を傾聴しながら、「その人」と何ができるかという考えを大切に、双方にとって水平な関係が保てるように努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響もあり対面での面会に制限がある時期もありますが、Zoomでの面会や窓越しでの面会を推奨し、感染予防に努めながら関係性を築けるように努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではありますが感染状況により面会の受け入れなどを行っています。遠方の方などはZoomを活用して関係が途切れないように支援しています。	年末には仙台市の感染状況に合わせ、感染対策を徹底して家族などの面会を受け入れた。年始には抗原検査をした家族と面会を実施した。遠方の家族とはオンラインを活用し関係が途切れないよう取組んでいる。馴染みの場所には行けなかったが、訪問理・美容は継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染対策を行いつつ、ご利用者同士のコミュニケーションが図れるように努めています。感染状況が悪化している場合は、職員が仲介に入るなど、双方にとって良好な関係を保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院期間が長くなりそうな方についても、細目に電話を行うなどの対応を行っています。医療ニーズが高くなり他施設へ移られた方に関しても、面会に行くなどしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員及びケアマネージャーは、ご本人やご家族にその都度希望や意向をお伺いし、これまでの生活を継続できるように努めています。例えば食事の嗜好や入浴のタイミングなども伺い楽しんでいただけるよう配慮しています。	職員は理念に沿って利用者一人ひとりの想いに耳を傾け、新たに得た情報は「情報共有ノート」に記入し、職員間で共有しモニタリングでも活用している。思いの把握が困難な人からは、生活歴や家族から情報を得たり、表情からくみ取っている。縫物や調理、掃除や洗濯たみ、ピアノを弾く人など、これまでの生活習慣や趣味が継続できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、ケアマネージャー、医療ワーカーなどから話を伺い、サービス利用に至るまでの経過の把握に努めています。できるだけご本人の馴染みの生活を継続できるように大切にしていることや習慣などもお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理やご本人の様子を細目に観察し、医療職との連携を図りながら健康状態の把握に努めております。ご本人の残存機能を活かしていただけることはご自分で行って頂き、意欲を持っていただけるような声掛けに努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の想いを傾聴し、ご家族より情報提供頂きながら、その方に合った介護サービスを提供できるように随時カンファレンスを実施し介護計画を作成しています。	ケア会議には、本人が参加し、希望を聞いている。介護計画は長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月で作成している。詳細が書かれた「アセスメントのための情報収集シート」を活用し、利用者の思いや家族からの要望を反映させ、その人に合わせたプランを作成している。家族からは隣接するデイホームに通わせてほしい等の要望がある。	
27		○個別の記録と実践への反映	日々の生活の中で状態変化や気付きを細目に記録しながら、スタッフ間で共有を行っております。必要時にカンファレンスを開催し、介護計画の変更を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の様子や、ケアの実践を個人記録や申し送りノートに記載し情報共有を図っております。法人の各部署に相談しながら、介護サービス内にとどまらない関わりを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍もあり、感染状況に合わせてマスクの着用、手指消毒を実施しながら近隣のスーパーやコンビニなどで買い物をしたり、散歩に行くなどしながら地域交流に努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託の往診がありますが、以前よりかかりつけ医がある場合などはご本人やご家族に確認を行い、ご希望に合わせて対応に心掛けております。受診もご家族に対応いただくことで直接説明を受けて頂く場合もあります。	殆どの利用者が往診医をかかりつけ医とし、月2回受診している。以前からのかかりつけ医や他科への受診は、家族付き添いを基本とし、本人の状態を書面にまとめ提供している。家族の状況によっては、職員が同行し受診している。同法人のいずみの杜診療所へは職員が同行している。非常勤の看護師が、健康管理や医療処置を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルやご本人の様子など報告を行い、変化があった際はかかりつけ医へ報告し、受診などの指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	救急搬送が必要となった際に提携している病院があります。また、ご家族に事前に搬送先の病院を伺い、入院が必要になった場合は速やかに対応できるよう普段から関係づくりを行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のほか、重度化した場合には担当医師よりご家族に対して改めて説明いただきます。終末期にあっては多職種で看取りチームを結成してご本人の支援にあたるよう、看取りチームとご家族等そで方針を共有しながら実施しています。	「看取りに関する指針」を作成し、入居時に説明している。重度化した際には改めて説明し、確認している。終末期には、医師が家族に状態を説明し事業所での方針を決めている。医師、看護師、職員、管理者で看取りチームを設け、連携体制を整えている。コロナ禍でも、法人マニュアルに沿い家族が面会や看取りに立ち会っている。管理者は看取り後、職員のメンタル面等のフォローも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会にて、急変時の対応を勉強しております。また、AEDの訓練や救急搬送の手順、緊急連絡訓練なども定期的に行っています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や緊急連絡の訓練を行っています。また、災害時の備蓄品も備えて定期的に確認しております。必要に応じて周辺事業所と連携し、普段から協力体制を築いています。	年2回、火災想定での避難訓練を夜間想定を含め行い、内1回は周辺事業所と合同で実施している。他に地震、水害想定での避難訓練も行い、土砂災害にも備えている。職員は毎週抗原検査を行い、コホーティング(陽性の入居者を事業所内で集団隔離する)訓練を行っている。非常食用食料は3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が人としての尊厳を当たり前を考え、大切にできるように努めております。個人に対しての礼儀や言葉遣いに気を付けるとともに、プライバシーにも配慮しています。	年1回、権利擁護や接遇、プライバシー保護についての研修を実施している。トイレへ誘導する際は、一人ひとりに合わせ声掛けを工夫するなど、日頃から尊厳に配慮し礼儀や言葉遣いに配慮した取組みを行っている。呼び名は「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご本人の要望、希望や想いを傾聴します。自己決定が行える選択を増やし、ご本人が決めるという場面が増えるように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や日中の過ごし方、起床、就寝等その人それぞれに合わせ対応しております。職員の都合でご本人のペースを乱してしまう事がないよう、ご本人の意思決定を尊重していけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時の髪型や外出時、入浴時の洋服の選定など、ご本人に伺い決めて頂けるようにサポートを行っています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の嗜好を伺いながら献立を一緒に考えたり、その時に食べたいものを提供できるようにしております。調理や準備、下膳などが難しい場合には一緒に行います。	利用者から食べたい物や料理を聞き、献立を立てている。利用者の残存能力に合わせ、下ごしらえを一緒にしたり、配膳や下膳を行っている。料理の見た目も彩り良く工夫し、職員と一緒に楽しみながら食事が出来るよう取り組んでいる。肉料理のリクエストが多く、嫌いなものは代替食を用意している。12月はユニット毎にすき焼きやチョコフォンデュを楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を日々確認し、不足時には補食のお声掛けをするなどしています。また、ご本人の状態が変化した際には法人内の医療職やかかりつけ医への報告、相談を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて口腔ケアを行っております。また、定期的に訪問歯科の利用をされている方もおり、適宜口腔状態の確認を行って頂き清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尊厳に配慮しながら、日々の記録や状況を把握し排泄リズムに合わせた声掛け、誘導を行っております。自立に向けトイレでの排泄が難しい方でも、ご本人の想いをいつまでも大切にしよう心掛けています。	排泄パターンを把握し、利用者がトイレで排泄出来るようタイミングに合わせ誘導している。夜間はポータブルトイレを利用する人もいる。便秘対策には散歩などで体を動かし、起床時に水分補給を行ったり、オリーブオイル、乳製品を摂り入れている。排泄検討委員会で一人ひとりの状態を検討し、下着、リハビリパンツ、パッドなど、使い分けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取状況を把握し、日中の適度な運動にて便秘予防に努めております。中には自力で排便が困難な方もおりますので、薬に頼らず医療職との連携を図りながら改善に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴は楽しんで頂けるよう音楽をかけたり、入浴剤を取り入れております。また季節の菖蒲湯、ゆず湯などの楽しみも工夫しております。ご本人の体調や希望に合わせた支援を行っております。	週2回以上を基本に毎回湯を交換し、入浴している。希望により、週4回入浴する人もいる。利用者は入浴剤の使用や音楽を流すなど、入浴を楽しんでいる。入浴拒否する人には無理強いせず、清拭や時間を変え清潔保持に努めている。希望があれば同性介助にも対応している。特殊浴槽もあり、車いすの人はストレッチャーで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもご本人の様子から、無理せず休んで頂くようお声掛けしております。夜間なかなか寝付けない方もおり、その際はゆっくりお話を伺ったり、リラックスしていただけるようマッサージなどを行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お1人ずつ処方ファイルを作成しています。変更があった場合は申し送り、情報共有ノートを活用し職員同士の共有を行っております。服薬時はダブルチェックを行い、安全に内服が行えるよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みなさんの趣味や生活歴を把握し、得意な事や出来る事を見つけ、楽しみながら役割を持って生活していただけるように支援しています。(ピアノ演奏、裁縫、園芸など)		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍のため、頻回な外出は行えていませんが、ドライブや近隣への買い物、散歩、外食などのお誘いを行い気分転換が図れるよう支援しています。	コロナ禍で外出の機会は減ったが少人数に分けて、桜や紅葉を見に出掛けている。近隣への散歩や買い物に出掛け、気分転換を図っている。年明けに家族と帰宅し自宅で過ごした利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望のある方にはご本人にお財布をお持ちいただいております。また、職員と買い物へ出かけた際は必要に応じてお持ちいただき、ご本人にお支払いいただくようにしております。ご自分で支払いが困難であっても、その場で職員がお支払する様子を説明するなど、お金を使用することに対する支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話はご自由にお使いいただけます。ご自分でかけることが困難な場合は職員が間に入りながら支援させて頂いております。最近では携帯電話をお持ちの方もおり、使用方法が分からない時は、職員が対応しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内で過ごす場所や、ご利用者同士で過ごせる場所、共用部の清潔を保ち、季節ごとの設えなど楽しめるように配慮しています。また、常時換気、室温、湿度調整を行いながら安心して過ごせる環境作りに努めています。	リビングは感染対策を徹底し、テーブルにはアクリル板を設置している。安心・安全に過ごせるよう常時換気し、温・湿度にも配慮している。職員と一緒に利用者が手作りした正月飾りや、季節毎のちぎり絵作品も飾られている。誕生会や外出時の写真も掲示し、見当識に配慮し居心地良く過ごせるようにしている。居室に表札を掲げる人や、トイレも分かりやすく表示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりのパーソナルスペースを大切にし、気の合う方同士で過ごせる空間、環境作りに努めています。ご家族が面会に来られた際は、自室や談話室でご本人との時間をゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にはご本人が大切にしてくられたものや馴染みの物、グループホームでの思い出の物を飾り、安心して居心地よく過ごせるよう配慮しています。	エアコン、ベッド、クローゼット、(居室によってはトイレ、洗面台)が備えてある。フローリングや畳の部屋があり、希望で布団を利用する人もいる。利用者は家族の写真や馴染みの物を持ち込み、その人らしく過ごせるように配慮している。衣替えなどは居室担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は常に清潔を保ち、廊下や共用部には必要物品以外置かず、ご利用者の歩行や作業に支障が無いように注意しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475500479		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームいずみの杜 ユニット:ずんだ		
所在地	仙台市泉区松森字下町7番地の2		
自己評価作成日	令和3年12月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」のもと、ユニット目標である「一人一人の想いを大切に」というスローガンを掲げて、ご利用者が安心して自分らしく過ごすことができるように日々関わらせていただいております。認知症という障がいがあっても、身体的なサポートが必要とされる場合も、合理的配慮をしながら、ご本人の想いと権理を大切にしたいと考えています。また、隣接しているいずみの杜診療所をはじめ、かかりつけの往診医など他職種と連携を図り、安心して過ごせる環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台市東部の住宅街に2001年に開設した平屋建て2ユニットの事業所である。母体法人の「医療法人社団清山会」は県内に多くの介護施設等を運営しており、同敷地内には診療所、介護老人保健施設、通所介護事業所等があり連携を図っている。法人理念の基、事業所目標をユニット毎に掲げ、利用者の思いに寄り添いながら、その人らしく生活が送れるよう日々取組んでいる。コロナ禍においても法人のマニュアルに沿い感染予防を徹底しながら家族との面会や外出、オンラインでの家族との面会など、工夫しながら利用者との関係が途切れないよう努めている。食事は利用者と一緒に考え、好きなものを献立に取入れ職員も一緒に食べている。コロナ禍において、職員は毎週抗原検査を実施し、コホーティング(集団隔離)想定訓練を実施している。法人で「宮城県直接応援派遣制度」に登録しており、他法人に感染者が発生した場合には応援職員を派遣するなど、連携体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームいずみの杜）「ユニット名 ずんだ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、職員一人一人が意識するよう働きかけています。日々の生活の中で認知症という障がいに向き合いつつ、尊厳を大切にして「その人」と繋がりを大切にしながらあたりまえの生活が送れるように関わりを持っています。	法人理念、社是、事業所目標をユニット毎に掲げ取り組んでいる。法人理念は「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関り」で、利用者職員が「水平な関係」を持ち尊厳を大切に、思いをくみ取り、あたり前の生活が送れるよう日々のケアに活かしている。目標は年度初めに職員で振り返り、話し合い決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため地域の行事や活動も自粛しているためなかなか参加できない状況ですが、毎月行う地域清掃や防災訓練に参加し、地域の皆様との交流を大切にしています。	町内会に加入している。コロナ禍で地域活動が自粛され、交流が減っているが毎月行われる地域清掃には管理者が参加している。コロナ禍以前は地域の防災訓練やお祭り、運動会に参加し事業所の行事を案内するなど、地域交流を深めていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響に伴い、集まったの運営推進会議は開催できておりませんが、定期的に地域に赴き、事業所の取組や状況などをお伝えするなど理解していただけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響に伴い、集まったの運営推進会議は開催できておりませんが、地域に事業所新聞を定期的にお届けし、サービス概要を知って頂いたり、関係者からの意見を集約し議事録にまとめ、配布するなどサービスの向上に努めています。	メンバーは市民センター館長、地域包括職員、民生委員、デイホームいずみの杜・訪問理美容の職員等で構成している。コロナ禍で現在は2ヶ月毎に事業所の状況報告を行いながら、「いずみの杜」新聞を届けている。メンバーから寄せられた意見を集約し、議事録にまとめて配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故発生時など報告が必要だと判断したものに關しては、速やかな市町村への連絡、情報の共有に努めながら報連相を心掛けています。	適宜、事故報告や入居状況などの報告をしている。コロナ関連の情報に關しては、随時メールなどで情報共有し、保健所とも連携し、職員の抗原検査についても結果を報告している。保護課職員が月1回来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束廃止のための委員会を開催しています。夜間防犯上の施錠以外は鍵をかけず、外出や散歩を希望されるご利用者は職員と一緒に楽しまれています。夜間などベッドからの転落などの危険性がある方には、センサーを設置させていただきこまめな訪室を心掛け、すぐに駆け付けられるように配慮しています。	3ヶ月毎、管理者、ケアマネ、介護職員で「身体拘束適正化検討委員会」を開催している。職員がインシデント、グレーゾーンカードに記入したものを委員会で集計し検討している。年2回、事例検討等を含め研修を行っている。外出傾向が強い人は、行動を見守り職員が同行している。ベッドからの転倒防止策としてセンサーを使用する人もいる。玄関は防犯上、20時から7時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解を深められるように、事業所内の勉強会やユニットでのミーティングを通じて、職員への周知と注意喚起に努めています。	虐待についての事例検討や法律、権利擁護について学び、虐待防止に繋がるよう理解を深めている。管理者は、職員が精神的な負担を抱えてないか都度、話を聞くなど負担軽減に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されるご利用者もいることから、制度について学ぶ機会を設けております。また、診断時に併設するいずみの杜診療所より制度活用のアドバイスなども受けやすい環境となっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご本人やご家族に対して、十分な説明を行います。不明な点についてはその場でお応えしながら、ご本人やご家族の不安を取り除けるように努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、面会時や電話等で近況報告を行い、その中でご意見やご要望を伺うようにしています。また、集約した意見などは、事業所ミーティングで話し合ったり、法人本部に相談しながら事業所運営に反映しています。	面会時や電話などで利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている。家族からは年末・年始に宿泊や外出、訪問についての相談が多い。遠方の家族とはオンラインも活用し、繋がりを大切に関係が途切れないう取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや個別の相談などで意見を集約し、職員や法人と相談しながら事業所運営に反映できるように努めています。	定期的なミーティング時や年2回の管理者との面談の際に意見・要望を聞いている。職員一人ひとりから話が聴けるよう、普段から話しやすい環境づくりにも努めている。職員からは備品や、シフトについての要望がある。法人本部に相談し、他の事業所とも連携を図り改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自ら取り組み挑戦できる機会があります。また、ご利用者と一緒にできることを企画し、職員がやりがいを持って働けるような環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員との普段の会話や面談を実施して個人の力量や努力を把握するように努めるとともに、法人内外の研修にも参加していただき個人のスキルアップを図っています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人で開催する研修、コロナウイルス対策の感染予防トレーニングや、応援派遣体制など法人全体での取り組みを実施しております。交流を持ちながら相互協力体制を整える環境整備ができています。	法人が「よろず懇話会」を開催しており、同法人、他法人の事業所同士、各取組みを発表し合うなど交流する機会を設けている。法人が開催する研修やコロナウイルス感染対策の感染予防トレーニング等において、同法人の他事業所と連携している。法人全体で「宮城県直接応援派遣制度」に登録し、緊急時には他法人に応援職員を派遣している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族には、入居申し込み時や入居前に実際に生活する場を見学いただき、事業所の雰囲気を感じて頂いております。その中でご要望やご質問にお答えしています。安心してサービスのご利用を開始できるよう管理者を始め、全職員で関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問調査時に生活の場となる事業所のサービスについて充分にご説明を行うとともに、ご要望や質問、不安な点などを伺い、対話を重ねて安心していただけるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に把握したご本人の情報や要望をもとにアセスメントを行い、ユニット内や事業所のカンファレンスを行いながら、必要なサービスのアドバイスをを行うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話のなかから想いを汲み取り、「その人と」という想いを常に持ちながら日々関わりの中でも意識しています。お手伝いが必要なことについては、その方の心身に配慮しながら一緒に行うなど、共に安心して過ごせる関係づくりに努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響もあり対面での面会に制限がある時期もありますが、Zoomでの面会や窓越しでの面会を推奨し、感染予防に努めながら関係性を築けるように努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではありますが感染状況により面会の受け入れなどを行っています。遠方の方などはZoomを活用して関係が途切れないように支援しています。	年末には仙台市の感染状況に合わせ、感染対策を徹底して家族などの面会を受け入れた。年始には抗原検査をした家族と面会を実施した。遠方の家族とはオンラインを活用し関係が途切れないよう取組んでいる。馴染みの場所には行けなかったが、訪問理・美容は継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染対策を行いつつ、ご利用者同士のコミュニケーションが図れるように努めています。感染状況が悪化している場合は、職員が仲介に入るなど、双方にとって良好な関係を保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、手紙や事業所便りを送るなどして、事業所の近況や取組みを知っていただけるように、関係性を継続できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努め、ご家族や馴染みある方へお話を伺うなどして、できる限りこれまでの生活を継続できるように努めています。	職員は理念に沿って利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、新たに得た情報は「情報共有ノート」に記入し、職員間で共有しモニタリングでも活用している。思いの把握が困難な人からは、生活歴や家族から情報を得たり、表情からくみ取っている。縫物や調理、掃除や洗濯たたみ、ピアノを弾く人など、これまでの生活習慣や趣味が継続できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、ケアマネージャー、医療ワーカーなどから話を伺い、サービス利用に至るまでの経過の把握に努めています。できるだけご本人の馴染みの生活を継続できるように大切にしていることや習慣などもお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録などを通じて、日々の心身の状態把握に努めています。また、「関わりの情報共有ノート」を作成し、日々のケアや関わり方を見直すツールとして活用しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人からの聞き取りやご家族からの情報をもとにユニットの職員で話し合い、カンファレンスを実施して現状に即した介護計画を作成しています。	ケア会議には、本人が参加し、希望を聞いている。介護計画は長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月で作成している。詳細が書かれた「アセスメントのための情報収集シート」を活用し、利用者の思いや家族からの要望を反映させ、その人に合わせたプランを作成している。家族からは隣接するデイホームに通わせてほしい等の要望がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や情報共有ノートをもとに、ご利用者一人一人の様子を把握するよう努めています。情報をもとにカンファレンスを行い、必要時に介護計画書の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の様子や、ケアの実践を個人記録や申し送りノートに記載し情報共有を図っております。法人の各部署に相談しながら、介護サービス内にとどまらない関わりを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回、ご利用者と地域清掃に参加したり、馴染みのあるデイケアに通うことで、地域との交流を楽しみながら過ごすことができるよう支援しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の診察を受けており、ご本人の様子や変化を、医師、ご家族にも適宜報告しています。他科受診など、ご家族の対応が難しい時には職員が付き添いを行っています。	殆どの利用者が往診医をかかりつけ医とし、月2回受診している。以前からのかかりつけ医や他科への受診は、家族付き添いを基本とし、本人の状態を書面にまとめ提供している。家族の状況によっては、職員が同行し受診している。同法人のいずみの杜診療所へは職員が同行している。非常勤の看護師が、健康管理や医療処置を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルやご本人の様子など報告行い、変化があった際はかかりつけ医へ報告し、受診などの指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	救急搬送が必要となった際に提携している病院があります。また、ご家族に事前に搬送先の病院を伺い、入院が必要になった場合は速やかに対応できるよう普段から関係づくりを行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のほか、重度化した場合には担当医師よりご家族に対して改めて説明いただきます。終末期にあっては多職種で看取りチームを結成してご本人の支援にあたるよう、看取りチームとご家族等そで方針を共有しながら実施しています。	「看取りに関する指針」を作成し、入居時に説明している。重度化した際には改めて説明し、確認している。終末期には、医師が家族に状態を説明し事業所での方針を決めている。医師、看護師、職員、管理者で看取りチームを設け、連携体制を整えている。コロナ禍でも、法人マニュアルに沿い家族が面会や看取りに立ち会っている。管理者は看取り後、職員のメンタル面等のフォローも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会にて、急変時の対応を勉強しております。また、AEDの訓練や救急搬送の手順、緊急連絡訓練なども定期的に行っています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や緊急連絡の訓練を行っています。また、災害時の備蓄品も備えて定期的に確認しております。必要に応じて周辺事業所と連携し、普段から協力体制を築いています。	年2回、火災想定での避難訓練を夜間想定を含め行い、内1回は周辺事業所と合同で実施している。他に地震、水害想定での避難訓練も行い、土砂災害にも備えている。職員は毎週抗原検査を行い、コホーティング(陽性の入居者を事業所内で集団隔離する)訓練を行っている。非常食用食料は3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護やプライバシーについて、定期的に事業所でも勉強会を行い、日頃から礼儀や尊厳を大切にしたい関わりができるよう努めています。	年1回、権利擁護や接遇、プライバシー保護についての研修を実施している。トイレへ誘導する際は、一人ひとりに合わせ声掛けを工夫するなど、日頃から尊厳に配慮し礼儀や言葉遣いに配慮した取組みを行っている。呼び名は「さん」付けで呼んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に聴く姿勢を常に持って関わるようにしております。説明しても難しい場合には実際に見ていただくなど工夫しながら自己決定できるよう配慮しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるよう努めています。日中、夜間の過ごし方も本人主体で過ごせるよう、職員は無理な声掛けなどを行わず、ご本人に伺いながら関わるようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性であればネイルやお化粧、男性であれば顔剃りなどを定期的に行い、一人ひとりが身だしなみを整え、おしゃれをあたりまえに楽しんでいただけるよう関わっております。			
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人へ食べたい物などを伺いながら献立を作成するよう努めています。一緒に調理や食事、片付けを行って食事の時間を楽しくしてもらえよう日々関わっています。	利用者から食べたい物や料理を聞き、献立を立てている。利用者の残存能力に合わせ、下ごしらえを一緒にしたり、配膳や下膳を行っている。料理の見た目も彩り良く工夫し、職員と一緒に楽しみながら食事ができるよう取り組んでいる。肉料理のリクエストが多く、嫌いなものは代替食を用意している。12月はユニット毎にすき焼きやチョコフォンデュを楽しんだ。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量は毎回確認して記録に残し、不足している場合は補助食品や代替食を提供するなどして補うよう努めています。また、ご本人の状態が変化した際には法人内の医療職や、かかりつけの病院へ相談、報告を行い対応しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の能力に応じた方法で口腔ケアを実施しております。また、定期的に訪問歯科を利用されている方もおり、日頃からの口腔清潔を意識して関わっています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄サインを把握するよう職員間で情報共有しながらケアの実施をしています。また、ポータブルトイレやトイレへの誘導を行い、自力で排泄しているよう支援しています。	排泄パターンを把握し、利用者がトイレで排泄出来るようタイミングに合わせ誘導している。夜間はポータブルトイレを利用する人もいる。便秘対策には散歩などで体を動かし、起床時に水分補給を行ったり、オリーブオイル、乳製品を摂り入れている。排泄検討委員会で一人ひとりの状態を検討し、下着、リハビリパンツ、パッドなど、使い分けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、食物繊維が多く含まれる食品や乳製品を献立に取り入れ、便秘予防に努めています。また、散歩するなど日頃から体を動かす機会を設けるようにも努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限りご本人の希望の時間で入浴していただき、無理強いをしないよう心掛けています。入浴を断られる方には清拭など代替案の提案を行うなど、清潔の保持に努めています。	週2回以上を基本に毎回湯を交換し、入浴している。希望により、週4回入浴する人もいる。利用者は入浴剤の使用や音楽を流すなど、入浴を楽しんでいる。入浴拒否する人には無理強いせず、清拭や時間を変え清潔保持に努めている。希望があれば同性介助にも対応している。特殊浴槽もあり、車いすの人はストレッチャーで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも希望があればお部屋で休む時間を設けていただきます。入床は無理強いせず、夜なかなか寝付けない方には、付き添いを行い、自室だけでなくホールでも好きな場所で安心して過ごせるよう関わっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師から用法や薬の副作用についても確認し、個人の処方ファイルを作成しています。また、申し送りノートに記載して情報共有を図るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や得意なことを把握し、ご本人が出来ること、楽しいと思えることを日々の生活の中で見出し、気分転換や役割を持って生活していただけるように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍ではありますが、感染状況を見ながら気持ちが塞ぎこまないように、近隣への散歩やドライブ、日光浴等へお誘いし、気分転換を図れるよう支援しています。ご家族と自宅での食事なども実施しています。	コロナ禍で外出の機会は減ったが少人数に分けて、桜や紅葉を見に出掛けている。近隣への散歩や買い物に出掛け、気分転換を図っている。年明けに家族と帰宅し自宅で過ごした利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望があれば、ご本人に財布をお持ちいただいております。一緒に買い物に行った際に、必要額を所持し、希望に応じてお支払いいただく様にしています。ご本人で支払いが困難な方でも、代わりに職員が支払いしている事を説明するなど、お金を使うことに対する支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、ご本人で電話や手紙等のやり取りをされる方は少ないですが、ご本人から頼まれた際は随時ご家族や大切な方に連絡を取れるように支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の共用部を常に清潔に保ち、ご利用者が毎日安心・安全に過ごせる環境作りを心掛けています。その日の気温やご利用者の状態をみながら室温調整にも配慮し、季節物や写真等思い出のある物を掲示することにより、居心地よく過ごせる空間づくりを行っています。	リビングは感染対策を徹底し、テーブルにはアクリル板を設置している。安心・安全に過ごせるよう常時換気し、温・湿度にも配慮している。職員と一緒に利用者が手作りした正月飾りや、季節毎のちぎり絵作品も飾られている。誕生会や外出時の写真も掲示し、見当識に配慮し居心地良く過ごせるようにしている。居室に表札を掲げる人や、トイレも分かりやすく表示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を考慮し、個人がゆっくり過ごせる空間づくりや、ホール内の趣味活動、ご利用者同士でレクリエーションや談笑ができる温かみのある空間づくりを心掛けています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、個人毎に馴染みのある物や、その人が安心して過ごせるような設えづくり、レイアウトの工夫等、個々を大切にしながら自分らしく生活できる場がつかれるよう支援しています。	エアコン、ベッド、クローゼット、(居室によってはトイレ、洗面台)が備えてある。フローリングや畳の部屋があり、希望で布団を利用する人もいる。利用者は家族の写真や馴染みの物を持ち込み、その人らしく過ごせるように配慮している。衣替えなどは居室担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋の入口にはご本人が選んだ暖簾を下げる事でお部屋が分かるよう工夫しております。また、ホールの段差解消の工事も行い転倒の危険性を軽減し、安心して過ごせる環境づくりができています。		